



Cisco Unified Intelligence Center

- [新機能, on page 1](#)
- [更新済み機能, on page 2](#)
- [特記事項, on page 3](#)
- [廃止された機能, on page 4](#)
- [削除され、サポートされない機能, on page 4](#)
- [サードパーティ ソフトウェアへの影響, on page 4](#)

新機能

ユーザ エクスペリエンスの変更

このリリースでは、次の管理コンソールのエンティティを設定、編集、および管理するためのユーザ エクスペリエンスが向上しています。

- User Management
- デバイス設定
- ログとトレースの設定
- コントロール センターの管理
- クラスタの設定
- ツール管理

詳細については、<https://www.cisco.com/c/en/us/support/customer-collaboration/unified-intelligence-center/products-maintenance-guides-list.html> にある『Cisco Unified Intelligence Center 管理コンソールユーザ ガイド』を参照してください。

CUIC CORS の有効化

このリリースでは、管理者は、Unified Intelligence Center の Cross-Origin Resource Sharin (CORS) に対して次の操作を実行できます。

- CORS ステータスの有効化、無効化、および表示
- 許可されたヘッダーの追加、削除、および一覧表示
- 無防備なヘッダーの追加、削除、および一覧表示
- 許可された起点 URL の追加、削除、および一覧表示

Unified Intelligence Centre のガジェット (ライブ データおよび履歴) を Cisco Finesse にロードするには、次のことを行う必要があります。

- **utils cuic cors enable** コマンドを使用して、CORS を有効にします。
- **utils cuic cors allowed_origin add URLs** コマンドに、Finesse のホスト URL を設定します。

ライブ データ ガジェットの場合は、上記の設定に加えて、**utils live-data cors enable** コマンドを使用して CORS を有効にすると同時に、**utils live-data cors allowed_origin add URLs** コマンド内で Finesse のホスト URL を設定する必要があります。詳細については、<https://www.cisco.com/c/en/us/support/customer-collaboration/unified-intelligence-center/products-maintenance-guides-list.html> にある『Cisco Unified Intelligence Center 管理コンソール ユーザ ガイド』を参照してください。

更新済み機能

ユーザ ロールの変更

- 現在サインインしているユーザのユーザアカウント情報を変更すると、そのユーザは自動的にサインアウトされます。
- サインインしているユーザが別のユーザーの [選択した権限で実行 (Run As)] モードにいる場合、そのいずれかのユーザのアカウント情報を変更すると、[選択した権限で実行 (Run As)] モードが停止します。

ダッシュボードのカスタム ウィジェットの有効化または無効化

このリリースでは、インジェクションの脆弱性に対処するために、ダッシュボードのカスタム ウィジェット機能はデフォルトで無効になっています。Unified Intelligence Center 12.5 に対して旧バージョンのダッシュボードに追加済みのカスタムウィジェットはすべて、バージョン 12.5 へのアップグレードを通知する読み取り専用モードで表示されます。そのウィジェットを保持するか、または削除するかを選択できます。

set cuic properties dashboard-customwidget-enabled の CLI を使用して、管理者は **カスタム ウィジェット** 機能を有効または無効にできます。

詳細については、

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/customer-collaboration/unified-intelligence-center/products-maintenance-guides-list.html> にある『Cisco Unified Intelligence Center 管理コンソール ユーザ ガイド』を参照してください。

特記事項

管理コンソールへのアクセス

管理コンソールにアクセスするための URL は、<https://<HOST ADDRESS>/oampui> です（HOST ADDRESS はサーバの IP アドレスまたはホスト名）。

ユーザの **ポリシー情報** を設定するには、従来の OAMP のユーザインターフェイス（<https://<HOST ADDRESS>/oamp>）にアクセスする必要があります。

アップグレード時の証明書の削除

アップグレードが正常に行われると、シスコによって未承認となった CA はプラットフォームのトラストストアから削除されます。それらは必要に応じて再度追加することができます。

- シスコがサポートする CA のリストについては、<https://www.cisco.com/security/pki> にある『Cisco Trusted External Root Bundle』を参照してください。
- 証明書の追加の詳細については、「[Insert a new tomcat-trust certificate](#)」を参照してください。

大規模スケジュールのアップグレード時の頻度

Unified Intelligence Center バージョン 12.5 にアップグレードした後、頻度が 1 日に 1 回を超えるすべての大規模なスケジュールは、1 日に 1 回だけ実行するように変換されます。

レポートのしきい値：画像の場所

このリリースでは、Unified Intelligence Center サーバから到達可能な画像 URL のみがサポートされています。画像に対して許可される最大サイズは 5 MB です。

言語 COP のインストール

Cisco Unified Intelligence Center をインストールまたはアップグレードした後、そのインターフェイスを英語以外の言語で使用する場合は、言語パックの COP をダウンロードしてインストールする必要があります。

廃止された機能

Internet Explorer 11

このリリースでは、Internet Explorer バージョン 11 は推奨されていません。

削除され、サポートされない機能

Cisco Unified Intelligence Center のライセンス

このリリースでは、Cisco Unified Intelligence Center の新規インストール時、またはアップグレード時のライセンスの適用は削除されています。

デフォルトでは、バージョン 12.5 のインストール時またはアップグレード時のライセンスで Cisco Unified Intelligence Center がプロビジョニングされます。

Unified Intelligence Center の HTTP サポート

このリリースでは、Unified Intelligence Center の HTTP サポートが削除されています。ユーザは、HTTPS を介して Unified Intelligence Center と安全に通信できるようになりました。

次の CLI は、Unified Intelligence Center リリース 12.5 から削除されています。

- show cuic properties http-enabled
- set cuic properties http-enabled
- show cuic properties hsts
- set cuic properties hsts on [秒単位の最大有効日数の値]
- set cuic properties hsts off

Office 365 の認証済み Excel パーマリンク

認証された Excel レポートのパーマリンクは、Office 365 ではサポートされていません。

MediaSense レポート

このリリースでは、MediaSense レポートが削除されたため、ユーザは MediaSense レポートを実行できません。

サードパーティ ソフトウェアへの影響

なし。